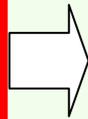


## 歯科衛生士は、患者様の口腔環境が健康になるようサポートしています。



井川直子 沖 沙也加

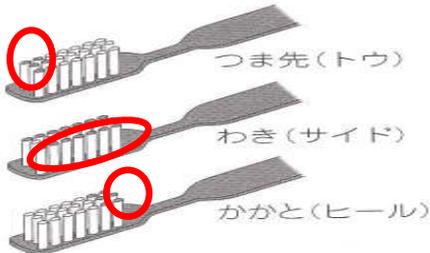
担当患者様の口腔ケアをする時、  
「この歯はどう磨いたらきれいになるのかな？」  
と困ってしまうことはありませんか？



歯ブラシの内側又は外側から  
入れ、毛先を歯と歯茎の境目  
に当てて小刻みに動かして磨く  
(つま先・かかとの部分)



歯ブラシを歯肉に向けて45度に当てて  
横に小さく振動して磨く(わきの部分)



歯ブラシの植毛部の「つま先」「かかと」  
「わき」を使い分けて磨くと効果的です

高齢者の患者様の多くは歯周病やう蝕により歯の形態が複雑です。  
例えば、歯と歯の間が広く空いている、入れ歯のバネがかかりう蝕歯になっている、  
歯茎が下がっている、そんなところに汚れが付きやすいので、ケアに工夫が必要  
です。

口腔の状態を毎日観察し、何かおかしい、どうしたらいいのか、と感じた場合には、  
できるだけ早期に歯科衛生士にご相談下さい。

入職して半年近く経ちました。大半がベッド上安静で、全身状態の変化に注意が必要な  
患者さまが中心の口腔ケアにとまどいを感じていますが、患者様の口腔内が健康な状態  
を保つことができるように、どんどん自分のアイデアを形にしてより良い口腔ケアを提供  
していきます。(沖)

# 第10回 岐阜南NST研究会報告 2012.9.27



奥村 圭子 先生

在宅栄養支援の和・愛知 管理栄養士・介護支援専門員 奥村 圭子先生をお招きし、『在宅要介護高齢者の望む暮らしを支える栄養支援の可能性と限界』をテーマに在宅での栄養管理について学びました。



参加者 94名(院外37名、院内57名)



在宅と病院との連携についての質問が多く連携のポイントについて、実践に活かせるアドバイスが参考になりました。

## 第5回 NST研修会報告

2012.10.3(水) 17:15~18:15 3階講堂



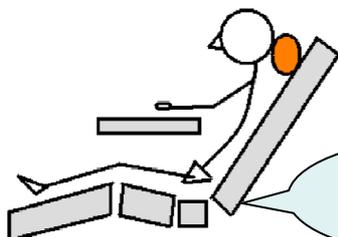
テーマ：リハビリテーション栄養×看護アプローチ  
リハビリテーション栄養×PTアプローチ  
看護師:高橋 久枝 理学療法士:渡邊 俊裕

入院中のADL低下を予防するためには、常に栄養管理の視点を持ち、患者様の状態把握した上で、ケアの優先度やアプローチ方法を検討し、ADL自立の援助に結びつけることが必要です。多職種への適切な情報提供も重要です。

食事姿勢を整えるポイント

- ①身体は前傾姿勢、②食べ物との距離を近く、③足を床につける
- ④食べ物を目視できるようにする。

### 【 ギャッジアップの理想姿勢 】



ギャッジアップ  
60度

- ・ 頸部を軽く曲げる
- ・ 後頭部をベッド面から指3本分離す
- ・ 膝を軽く曲げる
- ・ テーブルは腹部から胸部の高さに